ALINCO

PS0921A
FNEL-NG

特定小電力ヘルメット用トランシーバー

DJ-PHM10
取扱説明書

RoHS

本書には基本的な操作方法を記載しています。
拡張機能については弊社ホームページをご覧ください。

本機をご使用になるときは主電源を入れてください。
背面の防水キャップを取り外し、10 極スイッチ 10 番を ON 側に倒します。

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますのでこの取扱説明書は大切に保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。本製品は免許・資格不要の特定小電力無線電話として、各種通信にお使いいただけます。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東 京 支 店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3－4 日本橋プラザビル14 階 TEL.03-3278-5888
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1 丁目10－19 サンエイビル 4 階 TEL.052-212-0541
大 阪 支 店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4－9 淀屋橋ダイビル13 階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2 丁目13－34 エコービル2階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは
お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／ 10:00～17:00 月曜～金曜（祝祭日及び 12:00～13:00 は除きます）
ホームページ http://www.alinco.co.jp/「電子事業」をご覧ください。

安全上のご注意

本製品を正しく安全にお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために必ずお読みください。誤った使い方で生じる内容を図記号と共に説明しています。その表示と意味は次のようになっています。

表　示	表示の意味
⚠ 警 告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

表　示	表示の意味
(!) (電源プラグを抜く)	しなければならないことを告げるものです。
(禁止) (分解禁止)	してはいけないことを告げるものです。

天災や人災、不測の故障などで生じた損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、予めご了承ください。

⚠ 警 告

■使用環境・条件

- 本製品を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.
- 本製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。
- 本製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。
- 本製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。
- 指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。
- 自動車などの運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。
- 電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
- 内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では使用しないでください。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、各種機器が故障・誤動作する原因となります。
病院や医療機関では、医療機器などに支障がないか十分に確認の上、管理者の許可のもとご使用ください。
無線機を使用したことによって、いかなる誤動作・不具合が生じても、当社は一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

- イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因となることがあります。イヤホンを耳に装着する際、静電気が放電することがありますのでご注意ください。
- 本製品は調整済みです。特定小電力トランシーバーをユーザーが改造、変更することは法律で禁止されています。
- ケースが変形する原因となりますので直射日光が当たるなど高温になる場所での使用、保管は避けてください。
- イヤホンマイクなどが汗や水で濡れたときは拭き取ってください。水分がケーブルを伝って機器内部へ入ると故障の原因となります。
- 近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 本製品は防爆仕様ではありません。引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。静電気などによる発火事故の原因となります。

■充電器の取り扱いについて

- 指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC プラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。
- ぬれた手で充電器の AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 充電器の AC アダプターを、AC コンセントに確実に差し込んでください。AC アダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■異常時の処置について

- 以下の場合は、すぐ本体の電源を OFF にして、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、違法ですから、絶対にお止めください。

■本体が熱くなったり、煙が出たとき。
■異音や異臭がしたとき。
■落としたり、ケースを破損したりしたとき
■内部に水や異物が入ったとき
■AC アダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

- 雷が鳴り出したら安全のため本体の電源を OFF にし、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■保守・点検

- 本体や充電器のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

⚠ 注 意

■使用環境・条件

- テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
- 湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- グループトーク機能を使用する際、特定の番号において異なる機種との間で通話が途切れる場合があります。このような時は違う番号を選んで通話をお試しください。これはグループトーク機能に使われるトーン信号の精度が機種によってばらつくことによる相性のためであり故障ではありません。
- 直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- インバーターを搭載した電子機器や照明器具などの周辺、ハイブリッドカーや電気自動車などの車内や周辺ではノイズの影響で電波障害を受けることがあります。
- 磁気カードを無線機器の近くに置かないでください。磁気カードのデータが消去されることがあります。
- マイク部にシール類を貼らないでください。相手に音声が聞こえなくなります。

■トランシーバー本体の取り扱いについて

- フレキシブルマイクの先端など、突起物が目や鼻など傷付きやすい部位に当たらないようご注意ください。
- マイク端子には付属のマイクか、指定のオプション製品以外は接続しないでください。故障の原因となります。
- ズボンのポケットに入れないでください。座ったときなどに無理な力が加わり故障する原因となります。
- 設定スイッチの切り替えには先端が鋭利ではないものをお使いください。設定スイッチの防水キャップは必ず閉めてお使いください。
- 衝撃や水分、異物の混入などによる故障の場合は、保証対象外になります。

■充電器の取り扱いについて

- 充電器の AC アダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ず AC アダプターを持って抜いてください。
- 充電器の AC アダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならないときは安全のため、またリチウムイオンバッテリーの劣化防止のため主電源をお切りください。充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

■保守・点検

- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。
洗浄剤などを直接無線機に吹き付けないでください。機器内部に浸透し故障の原因となります。
- お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を OFF にして、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。
- オプションのマイクやイヤホンをお使いのときは、ケーブルをときどき湿らせた布で拭いてください。
汗や皮脂はケーブルを劣化させる原因となります。
- 製造番号ラベルをはがさないでください。製造番号がわからないと保証サービスをお受け頂くことができません。

使用前のご注意

■ご使用環境

高温、多湿、直射日光が当たり続けるところ、粉塵が多い場所は避けてご使用ください。

■分解しないで

特定小電力トランシーバーの改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

■ご使用禁止場所

本製品は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺）

本製品を使用できるのは日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.

■通信距離

通話できる距離は周囲の状況や取り付け方によって大きく異なります。
・ 河原など障害物がない平地、見通しのよい道：200m 程度
・ 市街地や住宅街など障害物が多い所：50 ～ 100m 程度
・ 店舗などの建屋内：30 ～ 50m 程度

・建屋内の縦階層間の通話はフロアが障害物になるため、直線では十数メートルの近距離であっても通話できないことがあります。このような場合は中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
・人体を含む障害物やアンテナの向き、歩くなど移動による影響を受けると、通話距離は半分程度まで短くなることがあります。
・トンネルのような閉鎖的空間では UHF 電波伝播の特性により近距離でも通話できないことがあります。

■第三者による傍受

電波を使用している関係上、無線機器の通話は第三者による傍受を完全に阻止することはできません。そのため機密を要する重要な通話に使用することはお勧めできません。

■グループトーク機能について

従来製品とグループトークによる通話をおこなった際、受信音声が途切れることがあります。
このような場合は違うグループ番号に設定変更して 通話をお試しください。

■バッテリーセーブについて

電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないとこの機能が動作します。信号を受信するか、キー操作がおこなわれるとバッテリーセーブは解除されます。バッテリーセーブ動作時に信号を受信すると、通話の始めが途切れる場合がありますが、異常ではありません。

■ 外郭保護性能について

付属の防水キャップまたは弊社指定の純正防水型アクセサリーを本体に装着することで、IP67 相当の耐塵防水になります。ただし、常に水しぶきや海水、油脂、薬品がかかる環境や、鉄粉が飛散するような環境での使用で発生する不具合については保証しておりません。また、すべての製品を出荷前に検査してその性能を保証するものではない「相当品」ですので、水没、流水での洗浄は絶対におやめください。濡れたときは乾いた布で手早く拭き取り、電池を抜いて内部をよく乾燥させてください。防水素材は時間が経つと劣化しますので、弊社では外郭保護性能についても製品と同じ保証期間とさせていただいております。

特定小電力の通信制限について

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項について説明します。

3分制限（3分以上は連続で送信できません）

10 秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。
中継通信の場合も連続した中継動作が3分を越えるとタイムアウトします。

注意 3分の通信時間制限により、自動的に通信が停止した後は、約2秒たたないと次の送信はできません。

キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さ以上の信号を受信しているときは［PTT］キーを押しても送信できません。
受信中に［PTT］キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。

注意 ビープを OFF に設定しているときは、アラーム音は鳴りません。

付属品と取り付け方

付属品をご確認ください

□ クリップ 2 種類（ADBH0065）
□ フレキシブルマイク（EHM-83A）
□ AC アダプター（EDC-300）
□ 充電ケーブル（UA0105）
□ スペーサー（FG0777）
□ 取扱説明書（本書）
□ 保証書

注意 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書といっしょに保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

クリップの取り付け

本機背面の下方向からクリップが「カチッ」とロックするまで押し込みます。

クリップは回転式と固定式の 2 種類を付属しています。ご使用になるヘルメットの形状や取り付ける位置に応じて使い分けてください。

クリップは消耗品です。2 種類セットの保守部品（ADBH0065）として販売しています。お買い求めの際は販売店にご相談ください。

クリップを装着すると防水キャップの開閉がしづらいため、先にスイッチの設定をおこなってから防水キャップを閉め、その後にクリップを取り付けてください。

フレキシブルマイクの取り付け

防水キャップを取り外し、フレキシブルマイクをしっかりとねじ込んでください。
ゆるみがないか定期的に点検してください。

本機にはマイクが内蔵されているため、交互通話と中継通話ではフレキシブルマイクを取り付けなくてもご使用いただけます。
同時通話では必ず付属のフレキシブルマイクや指定のオプションマイク製品をご使用ください。

本機の取り付け

本機のクリップでヘルメットのつばを挟み込みます。
フレキシブルマイクの白マークが口もとに向くよう調整してください。

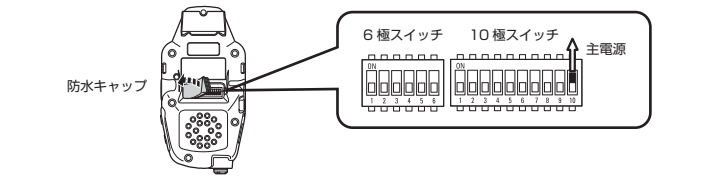
メモ クリップが取り付けできるヘルメットのつばの最大寸法は、高さ約 10mm、幅約 12mm です。

つばの無いヘルメットやオートバイ用、スポーツ用などのヘルメットにはご使用頂けません。
ヘルメットを地面や床に置くときはトランシーバーやクリップ、マイクなどに無理な力が加わらないようご注意ください。故障の原因となります。

主電源／内蔵バッテリーについて

本機にはリチウムイオンバッテリーが内蔵されていますが、出荷時には十分に充電されていません。ご使用になる前に主電源を入れ、付属の AC アダプターと充電ケーブルを使用して満充電にしてください。

主電源は本機背面の防水キャップを取り外し、10 極スイッチ 10 番を ON 側に倒します。

スイッチの切り替えには先端が鋭利ではないものをご使用ください。主電源の入り切りや各設定が完了した後は防水キャップを元どおりに取り付けてください。

注意 本機をしばらくご使用にならないときは安全のため、またリチウムイオンバッテリーの劣化防止のため主電源をお切りください。10 極スイッチ 10 番を OFF 側に倒します。
長期間ご使用にならず保管される場合でも、リチウムイオンバッテリーの劣化防止のため 1 年に 1 度程度は満充電にすることをお勧めします。
満充電にしても使用時間が著しく短い場合はリチウムイオンバッテリーが劣化しています。交換する際は販売店にご相談ください。
リチウムイオンバッテリーは充電回数や保管、使用状態の如何に関わらず、経年劣化する性質があります。製品の性能をフルに引き出して使用するためには 3 年程度を目処に交換することをお勧めします。

充電方法

トランシーバー（本機）に付属している充電ケーブルと AC アダプターを使用して充電する方法を説明します。

① 充電ケーブルの丸プラグをトランシーバー側面の電源端子へ接続します。
② 充電ケーブルの USB プラグを AC アダプターへ接続します。
③ AC アダプターを AC100V コンセントへ接続します。
充電が開始すると赤ランプが点灯します。
④ 充電が完了すると緑ランプが点灯します。
⑤ 丸プラグを抜き防水キャップを確実に閉めてください。

メモ 市販のスマートフォン用モバイルバッテリーからも充電できます。モバイルバッテリー側の性能によって満充電にならないことがあります。接続には本機に付属している充電ケーブルをご使用ください。

充電スタンド（オプション）

別売オプションの充電スタンドを使用して充電する方法を説明します。

●充電スタンド：EDC-299R（連結ケーブル付属、最大 5 台連結）
●連結用 AC アダプター：EDC-287

シングル充電

トランシーバー（本機）に付属している充電ケーブルと AC アダプターを使用します。

① 充電ケーブルの丸プラグを充電スタンド EDC-299R の背面にある電源端子へ接続します。
② 充電ケーブルの USB プラグを AC アダプターへ接続します。
③ AC アダプターを AC100V コンセントへ接続します。
④ トランシーバーを充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始すると赤ランプが点灯します。
⑤ 充電が完了すると緑ランプが点灯します。

連結充電

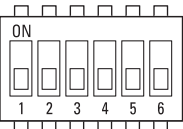
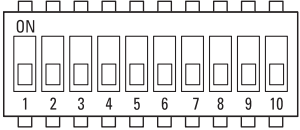
充電スタンド EDC-299R を連結して、最大で 5 台のトランシーバーを同時に充電することができます。

① 充電スタンドどうしを連結します。
② 充電スタンドに付属している連結ケーブルを、充電スタンド背面の電源端子へ接続します。
③ 連結用 AC アダプター EDC-287 のプラグを、端の充電スタンド背面の電源端子へ接続します。
④ AC アダプターを AC100V コンセントへ接続します。
⑤ トランシーバーをいずれかの充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始すると赤ランプが点灯します。
⑥ 充電が完了すると緑ランプが点灯します。

メモ　2 台連結まではトランシーバー（本機）に付属している充電ケーブルと AC アダプターをご使用頂けます。

注意　3 ～ 5 台を連結する際は、必ず別売オプションの連結用 AC アダプター EDC-287 をご使用ください。

メモ　空のリチウムイオンバッテリーを満充電するのに要する時間は約 3 時間です。充電は周囲温度が 0 ～ +40℃の屋内でおこなってください。充電するときはトランシーバーの電源を切ってください。電源を入れたまま充電すると満充電にならないことがあります。トランシーバーおよび充電スタンドの充電端子はときどき点検し汚れを取り除いてください。汚れていると接触不良により正常に充電できないことがあります。

各部の名前とはたらき

設定スイッチ

主電源

出荷時は、すべてのスイッチは OFF 側に設定されています。
ご使用になる際は主電源を入れてください。10 極スイッチ 10 番を ON 側に倒します。

6 極スイッチ　10 極スイッチ　主電源

機能説明

6 極スイッチ		初期値
1 番	グループトーク	OFF
2 番	交互通話／中継通話	交互通話
3 番	同時通話	OFF
4 番	ショックセンサー	OFF
5 番	温度センサー	OFF
6 番	PTT ホールド（送信保持）	ON
10 極スイッチ		**初期値**
1 番	VOX（音声検出送信）	OFF
2 番	ビープ音、音声ガイダンス	ON
3 番	コンパンダー（雑音低減）	OFF
4 番	音声ループ	OFF
5 番	スタートピー、エンドピー※1	ON
6 番	送信出力	AUTO
7 番	コール バック	OFF
8 番	オプション選択	下表参照
9 番		
10 番	主電源	OFF

メモ　※1　スタートピーとは PTT（送信）キーを押し送信開始時に「ピピ」音を発する機能です。
エンドピーとは送信が終了したことを「ピッ」という音で相手にお知らせする機能です。
これらの音は送信側から発せられるため、機能の ON ／ OFF 選択をする際は送信側機器を設定してください。

本書に記載していない機能の説明は弊社ホームページをご覧ください。
http://www.alinco.co.jp/division/electron/index.html
スマートフォンなどで本機側面の QR コードを読み取り、弊社ホームページにある取扱説明書を参照することができます。

オプション選択

ご使用になるマイク／イヤホン製品に応じて 10 極スイッチ 8 番、9 番を設定してください。
設定により適切なマイク、音声出力先、PTT（送信）キーが選択されます。

オプション	10 極スイッチ 8 番	10 極スイッチ 9 番	マイク	音声出力先	PTT（送信）キー
フレキシブルマイク（付属）	OFF	OFF	外部	本体	本体
イヤホン（オプション）	ON	OFF	本体	外部	本体
咽喉マイク（オプション）	OFF	ON	外部	本体	外部
イヤホンマイク（オプション）	ON	ON	外部	外部	外部
不使用	ON ／ OFF 不問		本体	本体	本体

「本体」とは本機に内蔵されたマイクやスピーカーが作動することを示しています。
「外部」とはマイク／イヤホン端子へ接続したオプション製品が作動することを示しています。
オプション製品に対するスイッチの設定が誤っていると、誤動作することがありますのでご注意ください。

基本操作

本機の基本となる操作方法を説明します。
本機は起動時にチャンネルなどの設定内容を音声ガイダンスでお知らせします。

主電源を入れる

防水キャップを取り外し、10 極スイッチ 10 番を ON 側に倒します。

電源を入れる

電源キーを約 2 秒間押して電源を入れます。ランプが青色に点灯します。
電源を切るときも電源キーを約 2 秒間押します。

音量を調整する

アップキー、ダウンキーを押します。キーを押すと「ピッ」という音が鳴るので適切な音量に調整してください。キーを押し続けると連続して音量が変化します。アップキーとダウンキーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ音量調整の目安となります。

注意　イヤホンをご使用になる際や本機を耳もとに近づける前に、あらかじめ音量を下げ、小さい音から徐々に上げて調整してください。音量を大きくし過ぎると聴力障害の原因となる恐れがあります。

イヤホン断線検知機能

オプションのイヤホンやイヤホンマイク製品を使用し、10 極スイッチ 8 番を ON に設定したとき、音声出力先は外部機器が選択され、イヤホン断線検知機能が働きます。電源を入れた直後に「イヤホンが断線しています」と鳴り、ランプが赤色と緑色に交互点滅したらイヤホンが断線しています。新しいものにお取り替えください。

受信する

信号を受信するとランプが緑色に点灯し、スピーカーやイヤホンから受信音が鳴ります。

メモ　本機にはテールノイズキャンセラー機能が搭載されており受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています。本機能を搭載した弊社機器間の通話においてのみ有効です。

送信する

PTT（送信）キーを押すと送信を開始します（PTT ホールド ON 設定)。ランプが赤色に点灯します。マイクに向かってお話しください。もう一度押すと受信待ち受けに戻ります。6 極スイッチ 6 番の設定により押している間だけ送信することもできます（PTT ホールド OFF 設定）。

注意　一定の強さ以上の信号を受信している間はキャリアセンスが働き、警告音が「ブブブ」と鳴り送信できません。ビープ音を OFF に設定していると警告音は鳴りません。

コールトーン機能

交互通話と中継通話では送信中にアップキーまたはダウンキーを押すと呼び出し音が送出されます。
ビープを OFF に設定しているときは、呼び出し音は送出されません。
同時通話ではこれらのキーが音量調整に限定されるため、コールトーン機能は働きません。

チャンネル設定

アップキーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」と鳴ります。
アップキーまたはダウンキーを押してチャンネルを選択してください。選択したチャンネル番号が鳴ります。

交互通話／中継通話

交互通話または中継通話でご使用になる際は 6 極スイッチ 2 番を設定します。

同時通話

同時通話でご使用になる際は 6 極スイッチ 3 番を ON 側へ倒します。
このとき 6 極スイッチ 2 番は必ず OFF 側へ倒してください。

6 極スイッチ	設定	通話モード／使用チャンネル
2 番	OFF	交互通話　L1 ～ L9、B1 ～ B11（20 チャンネル）
	ON	中継通話　L10 ～ L18、B12 ～ B29（27 チャンネル）
3 番	OFF	6 極スイッチ 2 番の設定に従う。
	ON	同時通話　L10 ～ L18、B12 ～ B29（27 チャンネル） 注意：6 極スイッチ 2 番は必ず OFF 側へ倒してください。

B12 ～ B29 チャンネルに設定すると送信出力が自動的に 1mW になり、3 分制限のない連続通話をおこなうことができます。
弊社製の同時通話トランシーバーと組み合わせて通話するときは、それらの機器の送信方式を「強制モード」や「PTT タイプ」に設定してください。

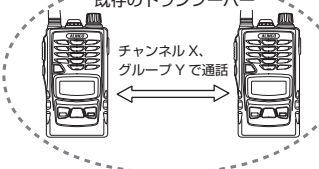
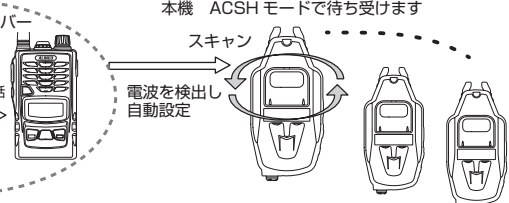
メモ　リセット（初期化）したときは、それぞれの通話モードの先頭チャンネルになります。

グループトーク機能

同じグループの人とだけ通話したいときはグループトーク機能を設定します。
同じグループのトランシーバーは、同じグループ番号に設定してください。
グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択します。

6 極スイッチ 1 番を ON 側に倒します。

ダウンキーを押しながら電源を入れます。「グループを選択してください」と鳴ります。
アップキーまたはダウンキーを押してグループ番号を選択してください。選択したグループ番号が鳴ります。

6 極スイッチ 1 番	設定	
	OFF	グループトーク機能 OFF
	ON	グループトーク機能 ON　1 ～ 50 番

チャンネルとグループ番号の自動設定

ACSH「アクシュ」モード（Auto　Connect　Shake　Hands）について説明します。

既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号をスキャンして検出し、本機に同じものを自動設定する機能です。
キー操作によるチャンネルとグループ番号の設定作業が省略できます。
本機能は交互通話および中継通話においてご使用頂けます。同時通話ではご使用頂けません。

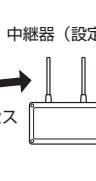
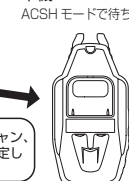
概要

ACSH「アクシュ」モード

① 電源キーを約 7 秒間押し続けます。途中で起動音が鳴りランプが青色点灯しますが、そのまま押し続けます。
②「アクシュモードです」と鳴り、ランプが青色と緑色の交互点滅をします。
複数台を同時に設定する場合は、他の個体も同じ状態にします。
③「設定もととなるトランシーバーを送信してください」と鳴り電波のスキャンを始めます。
④ 設定もととなる既にご使用中のトランシーバーを送信状態にします。
このまましばらくお待ちください。
⑤ 電波を検知すると「ピピ」「自動設定が完了しました」と鳴ります。
自動設定された通話モード、チャンネル、グループ番号が鳴ります。
⑥ 自動的に本機の電源が切れます。電源キーを約 2 秒間押して電源を入れ直してください。

注意　本機を ACSH モードにして既存機器が発する電波を受信し、自動設定が完了するまでの時間は数秒から最大で 2 分程度を要することがあります。

ACSH モードを起動し本機が電波をスキャンしているときは、送信側（設定もと）機器のマイクから音声が入らないようにご注意ください。音声により信号が乱されて正常に判定できないことがあります。

グループ番号の検出においてトーン周波数が近いものは動作が不安定であったり、誤判定することがあります。（例：01 番「67.0Hz」と 39 番「69.3Hz」など）数回スキャンを試みても誤判定する場合は、グループ番号を 01 ～ 38 番の範囲に設定してご使用ください。

ACSH モードでの自動設定は、外来電波による誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。

自動設定中は電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。

ACSH モードで自動設定した後に、スイッチ操作によるチャンネルとグループ番号の変更はできません。自動設定した内容が優先されるためであり、スイッチ操作による再設定をおこなうときはリセットして設定内容を初期化してください。

中継子機とするとき

中継子機として自動設定する際は、中継器が発する電波を受信する必要があります。本機を ACSH モードにして、既存のトランシーバーから中継器にアクセスします。中継動作中に自動設定がおこなわれます。

注意　中継器から発せられる電波をスキャンするときは、グループ（トーン）信号が正常に判定できないことがあります。機器によりグループ（トーン）信号の波形や精度が異なるためであり、このようなときはグループ番号を 01 ～ 38 番の範囲に設定してご使用ください。

減電池お知らせ

バッテリーの電圧が低下すると青色ランプが点滅し、定期的に「充電をしてください」と鳴りお知らせします。本機の電源を切って充電してください。ビープ音を OFF に設定しているとお知らせ音は鳴りません。

リセット（初期化）

PTT（送信）キー、アップキー、ダウンキーの 3 つを押しながら電源を入れると本機を初期化します。ランプが白色に点灯したらキーを放してください。すべての設定内容は工場出荷状態へ戻ります。

動作がおかしい?と感じたときは初期化する前に主電源（10 極スイッチ 10 番）を入れ直してください。正常な状態に復帰することがあります。

故障とお考えになる前に

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。ランプが点かない。	主電源が入っていない。	10 極スイッチ 10 番を ON 側に倒してください。
	バッテリー電圧が低下している。	充電してください。
音が出ない。受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に調整してください。
	相手とチャンネルが違う。	同じチャンネルに合わせてください。
	相手とグループ番号が違う。	同じグループ番号に合わせてください。
	相手と距離が離れすぎている。	通信距離を目安に通信してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信してください。
	3 分の通信時間制限を超過している。	PTT（送信）キーを放し 2 秒経過してから送信してください。
	使用しているマイクに適した PTT キー設定になっていない。	10 極スイッチ 8 番、9 番の設定を見直してください。
送信音声が相手に聞こえない。	使用しているマイクに適した選択がされていない。	10 極スイッチ 8 番、9 番の設定を見直してください。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを取り除いてください。
	バッテリーが劣化している。	バッテリー交換について販売店にご相談ください。

処置を施しても異常が続くときは主電源（10 極スイッチ 10 番）を入れ直してください。
バッテリーの電圧が低下していると、まれに誤動作することがありますので充電してください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後 5 年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

オプション一覧

EDC-299R　シングル／連結充電スタンド（連結ケーブル付属）
EDC-287　連結用 AC アダプター（3 ～ 5 台連結用）
EDH-33　シガーケーブル　　EME-32A　イヤホンマイク
EME-48A　イヤホンマイク　　EME-62A　咽喉マイク
EME-58　イヤホン　　EME-60　イヤホン

定格

項目	内容
送受信周波数	421.5750 ～ 421.7875MHz ／ 421.8125 ～ 421.9125MHz 422.0500 ～ 422.1750MHz ／ 422.2000 ～ 422.3000MHz 440.0250 ～ 440.2375MHz ／ 440.2625 ～ 440.3625MHz
周波数制御チャンネル	421.8000、422.1875、440.2500MHz
電波形式	F3E（FM）、F1D（FSK）
送信出力	10mW、1mW
受信感度	−14dBu（12dB　SINAD）
音声出力	80mW 以上（8Ω負荷）
通信方式	単信、半複信、複信
定格電圧	内蔵リチウムイオンバッテリー　DC3.7V ／ 700mAh
外部電源端子	DC5 ～ 6V　EIAJ 区分 2
消費電流	送信時：約 75mA（10mW）／約 65mA（1mW） 受信定格出力時：約 130mA（50mW） 受信待ち受け時：約 80mA バッテリーセーブ時：約 20mA
動作温度範囲	−10 ～ +50℃(充電は 0 ～ +40℃)
寸法	高さ 107mm× 幅 56mm× 厚さ 33mm（最薄部 23mm）突起物除く
重さ	約 104g（内蔵バッテリー含む）

・仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
・本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。